令和５年度　麹町幼稚園
第２回　幼稚園運営連絡会

〇日時　　令和６年３月１日（金）　１６：００～１７：００
〇場所　　麹町区民館　洋室Ｄ
〇参加者

【委員】
鈴木　徹　　（麹町二丁目町会長）
谷　眞理子　　（ワーク・わくクラブ代表）
石井　雅幸　　（大妻女子大学　教授）
酒井　浩子　　（主任児童委員）
川島　はつね　（令和４年度麹町幼稚園 PTA 会長）
森　阿也香　　（令和５年度麹町幼稚園 PTA 会長）
田村　砂弥香　（麹町小学校長）
木村　恭子　　（麹町幼稚園長）
【事務局】
荒木　久子（幼稚園主任）　　高久　由起恵（教諭）
信川　佳代（教諭）　　北村　優佳　（教諭）

〇内容
１．開会あいさつ

２．園長挨拶

３．幼稚園評価について（園長）
・保護者の方々や地域の方からの回答は、すべての項目がほぼ「大変そう思う」「思う」だった。
・「７　幼児理解に基づいた教育の実践」について。別途資料配布。その日の保育の反省を振り返り、翌日の保育に生かしている。遊びの姿、学級活動の参加の様子、生活の姿から、援助の方向性を考えている。他の教員とも育ちを共有し、多角的に理解を深めて連携している。
・「１１　心わくわく体いきいきな姿」について。この姿の捉え方は人それぞれ違い漠然としたものなので、具体的な姿を出し合い共通理解している。子どもの姿を捉える際に、視点としても活用している。
・「１３　運動的な活動の取組」について。毎年、「あまり思まない」「思わない」と回答する保護者の方が数名いる。様々な場所を活用して体を動かす機会を保障し、校庭が空いているときは見逃さずに活用している。
・次年度は新３歳児クラスに１３名が入園予定となり、園児数が減少しており、幼稚園教育をしっかり発信していきたい。発信する力や伝える力を教師も磨いていく。

４．事務局より
〇次年度の年間計画/保護者・地域との連携について、（幼稚園主任　５歳児担任）
・４/１０に入園式、６月園公開、９/２８おやこでスポーツ、１１月園公開、１２月こどもかい、２月展覧会があるので、足を運んでいただきたい。

・「昔遊びに親しむ」では地域の人との関わりを楽しむ子ども姿から成長を実感した。日本の伝統文化を次の世代にバトンタッチする存在である子どもたちにとって、有意義な機会となった。
・３０周年を祝う節目の年。メモリアルホールを見に行く、式典に参加するなど、昔の幼稚園の歴史や伝統を感じ気持ちを向ける機会となった。
・収穫パーティーに向けて４歳児が地域の濱田商店に買い物に行った。５歳児の稲作活動ではスズメの被害にも遭ったが、麹町マイスターさんに相談したところ穂をいただけた。地域の方との関わりを増やすことができた。
・いきいきプラザとの交流も再開する。
〇５歳児の生活について
・登園日数が残り１０日となった。修了式の言葉を子どもたちと考えたり、“やりたいことリスト”を作ったりし、１秒も無駄にすることなく楽しみ尽くそうと生活している。
・今年度は感染症対策の制限がほとんどなく、教育活動を再開することができた。

〇園内研究について（４歳児担任）
・１０月３１日に千代田区教育委員会研究協力園として、研究発表会を無事に終えることができた。
・「心わくわく！体いきいき！たくましい麹町の子」を育むために、「よさやその子らしさ」に着目し研究を進めてきた。
・研究の成果の１つでもある「よさやその子らしさ発見シート」の開発と活用をしながら、改めて「よさやその子らしさ」に着目すると、子どもが伸び伸びと自己発揮したり、自信につながったりする姿が増え、日頃の保育や研究発表当日から研究の成果を実感することができた。
・実践事例を通して、他学年の職員と子どもの姿を共有したり、多角的に捉えたりして幼児理解を深めてきた。そして３年間の発達過程を見通した「KOJIMACHI カリキュラム」を編成した。（本日配布）
〇４歳児の生活について
・５歳児に誕生会の司会やカメの世話の仕方を教えてもらうなど、実際の経験を通じて進級に向けて期待をふくらませている。
・修了を迎える５歳児を招く「ありがとうの会」に向けて自分たちが中心となって、司会やプレゼント、会場装飾など準備を進めている。５歳児への感謝やお祝いの気持ちをもつとともに、自分自身の自信や成長を感じる機会にしていきたい。

〇自然について（３歳児１組担任）
・カエルが園のビオトープに卵を産み、部屋でも飼育している。自然が豊かで心が動く園庭である。
・今年度は氷が張るのが早く、雪も降ったので、霜柱や雪に親しむことができた。５歳児は虫眼鏡で氷の観察をし、研究する姿があった。
・コカブを育てている中でヨトウムシに食べられてしまうこともあったが、子どもたちとも自然の難しさを感じながら収穫の喜びを教師と一緒に味わった。
・教師が自然に関わる姿がモデルとなり、子どもも一緒に関心をもって過ごしている。
・夏みかんが育っているので、来週ジャムにして食べる予定。
・ポートフォリオや「すてきななかま」で引き続き発信をしていく。

○３歳児の生活について

・２学級が合同になり、一緒に生活している。なりきって遊ぶことや、鬼遊びなど好きな遊びの幅が広がった。

・幼稚園や教師が安心できる場所・人になるように丁寧な関わりを心掛けた。自分の思いを表したり、身近な大人に伝えたりする姿が増えた。

・人との関わりの面で大きな成長を感じている。「先生、先生！」だった姿が、友達に関心が向くようになってきた。

・「ありがとうの会」に向けて４歳児と一緒に活動している。その取組の中で、自分でできるようになった喜びを感じているところである。

○縦のつながり・異年齢交流について（３歳児２組担任）

・園内での異年齢交流は、普段から遊びの中で関わっている。また３学年の縦割りグループを作り、計画的に交流している。

・なかよしチャレンジでは教育目標をテーマに、異年齢児同士で関わりながら取り組んだ。

・１年生体験では、麹町保育園５歳児と一緒に、１年生にタブレットを触らせてもらったり、ランドセルを背負わせてもらったりして、就学への期待につながった。

・５歳児は麹町保育園に遊びに行く機会も設けることができ、相互に行き来することでより交流を深められた。

・４、５歳児は５年生と交流している。１・２学期は５年生のお店屋さんに招待してもらい、３学期は幼稚園で普段している遊びを一緒に楽しんだ。

５．懇談・意見交換等

【委員の方より】

・広いとはいえない園庭を有効に活用している。カエルが卵を産みに来たのは、環境を維持しているから。アリも複数の種類がいる。栽培活動はうまくいかないこともあり、ショックなことではあるがそれも大切な経験。稲は人に食べられるためではなく、稲の子孫を残すために育っているという話を５歳児にもしたが、よく話を聞いて分かっていた。

・３～５歳児までの成長の課程を示した教育課程は大事だと思った。幼稚園で経験したことを、子どもなりに概念化し、学びにつなげていくことが大切。それが小学校につながっていると思う。

・「昔遊びに親しむ」では子どもたちが生き生きと遊んでいて、町会の人も楽しみにしている。園での生活も園だより等で見ている。

・野菜や稲の収穫は子どもにとっても大切な体験だと思う。「スズメに食べられた」「うまくいかなかった」という自然で失敗する体験は大切で、家庭ではなかなか経験できない。

・「昔遊びに親しむ」では各学年で全く違う姿があり、成長の過程を感じた。

・研究発表の参観時に泥団子が壊れてしまった子がいて一緒に作った。昔遊びのときに、その子どもが「ありがとう」と言いに来てくれた。

・幼稚園の時期は人間としての土台を作るのに大切な時期だと子どもの姿から実感している。心が動く体験や学びをしていることを子どもの姿から感じている。

・「自分なら大丈夫」という肯定的な気持ちが子どもに育っていることを感じている。

・教師が子どもの育ちを横で一緒に支えてくれている。

・仕事をしていると１４時降園はあっという間ではあるが、教育内容が充実しているところを宣伝してい

きたい。
・我が子は「幼稚園が大好き」という気持ちが強く、自分で目覚ましで起き、支度をしている。
・様々な個性のある子どもを大切にしながら保育していることが、子どもの姿につながっている。
・様々な国籍の子がいるが、大人よりも子ども同士の方が関わり方が上手いように感じている。垣根を感じていない子どもの姿があった。
・建物一体で小学校と幼稚園が一緒にあることの意義を感じる。児童は幼稚園の子が来るとお兄さん、お姉さんの顔になる。人との関係性の中で成長していることを実感している。
・園内研究で学んでいることが土台となって、小学校の学びにつながっていると感じている。

６．閉会の挨拶